

香川総合医療教育研究コンソーシアム  
ニュースレター

2009  
第3号  
Dec.15

地域に密着したチーム医療と電子処方箋



徳島文理大学  
飯原なおみ准教授

香川大学  
芳地一教授

電子処方箋の説明会

最近では「チーム医療」という言葉をよく耳にするようになりました。「チーム医療」とは、一人ひとりの患者さんを医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師、臨床工学技士、栄養士などがそれぞれの専門を生かし、協働で治療に当たるもので、医療レベルの向上に大きく貢献することが期待されています。

「チーム医療」は各病院で取り組みが開始されていますが、これを地域全体に広げて、さらなる医療サービスの向上を実現したいと考えております。

また、今日、ITが著しく進歩・普及を遂げてきており、これを活用することによって、医療情報の共有が容易になってきました。病院では電子カルテシステムが稼働しており、どの部屋からでも医師や看護師、薬剤師などが患者さんの状況を即座に把握できるようになり、チーム医療の推進に大きな役割を果たしております。

さらに香川県では全国に先駆けて、地域で医療情報を共有するしくみ「かがわ遠隔医療ネットワーク (K-MIX)」が稼働しており、着々と整備・拡充されています。地域の医療者が医療情報を共有できるようになれば、効率的に地域に密着したチーム医療ができるようになり、医療サービスの向上に大きく寄与できると考えております。

これからの10年20年先を考えると、「地域に密着したチーム医療」の時代が訪れるはずで、教育・研究を使命とする我々はその新しい時代に対応でき、活躍できる人材を育てて行く必要があります。また、「地域に密着したチーム医療」がどのようなもので、これを実現するための社会のしくみがどうあるべきかなどを研究して行く必要があります。

しかしながら、チーム医療は医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師、臨床工学技士、栄養士などが協働で行うもので、多くの医療職種に渡るため、一つの大学だけではカバーしきれません。

幸いにも、医療系学部を有する地域の3大学（徳島文理大学、香川大学、香川県立保健医療大学）は20年度の文部科学省大学連携支援事業に採択され、香川総合医療教育研究コンソーシアムとして、このテーマに協働で取り組むことができるようになりました。すなわち、新しい医療のしくみを研究開発していくとともに、そのしくみをフルに活用して「地域に密着したチーム医療ができる高度な医療人」の育成に取り組んでおります。

特に、香川総合医療教育研究コンソーシアムでは地域の医師と薬剤師が効率的にチーム医療をできるしくみ「電子処方箋」の研究・開発に取り組んでおります。そして、この「電子処方箋」をモデルにして地域密着型チーム医療の教育のあり方を研究するとともに実践して行くことしております。

このたび、電子処方箋システムの基本的な機能が完成したので、香川県薬剤師会や地元調剤薬局の方々の協力を得て、システムの検証を行っております。



三大学の学生が集まりチーム医療についての勉強・協議



香川総合医療教育研究コンソーシアム

## 電子処方箋の概要

現在の処方箋（紙）には、薬の処方情報しか記載されておらず、調剤薬局での確な服薬指導や健康アドバイス、さらに副作用の発見などを行うには十分とは言えません。このため、電子処方箋では同意した患者さんの病名や検査データなど医療情報を調剤薬局の薬剤師が参照できるようにします。

また、忙しい医師との情報連携を病院の電子カルテと調剤薬局の端末を用いて電子的にスムーズに行うようにします。

将来、多くの病院がこのしくみに参加するようになれば、調剤薬局で薬の飲み合わせや重複投与などをチェックできるようになります。

電子処方箋の概要は次のとおりです。

- ① 診療が終われば病院の窓口で患者さんが端末から電子処方箋のしくみに参加を同意するとともに希望の調剤薬局を選択します。
- ② 患者さんは選択した調剤薬局に行き、処方箋（紙）を提出します。調剤薬局では医療情報システム内の患者さんの医療情報を参照して、的確な服薬指導、健康アドバイス、副作用の発見などに努めます。



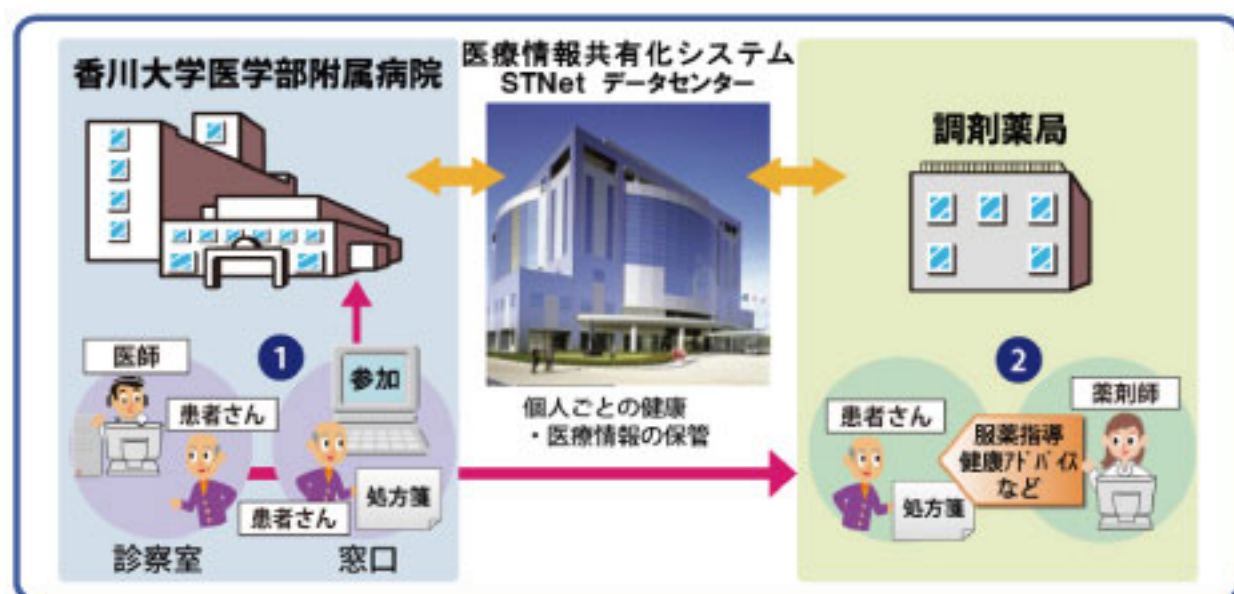
電子処方箋は患者さんの医療情報を扱うために厳密な情報管理が必要です。このため、医療情報共有化システムを専門のデータセンターに設置するとともに通信に暗号化などの対策を講じています。

電子処方箋を利用する薬剤師についても、電子処方箋の利点を十分に活用していただけるよう臨床検査データの見方や副作用の発見などの教育を提供して行きたいと考えております。

現在、電子処方箋システムは基本部分が完成した段階であり、今後、十分な検証を行いながら、慎重に適用範囲を広げて行く予定です。



電子処方箋システムの説明会



電子処方箋の概要

## 副作用診断教育

徳島文理大学香川薬学部は、文部科学省「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」の委託事業として、現職および離職している薬剤師を対象としたe-Learningによる「副作用診断教育プログラム」を開講しています。

初年度の21年度は、春期168名、秋期281名が受講しています。

22年度については次の開講を予定しています。

- ・春期開講 4月27日～7月31日（募集期間 3月2日～4月3日）
- ・秋期開講 10月26日～2月20日（募集期間 8月31日～10月2日）

### ◆平成22年度春期講座

- 第1回 基本事項とトピックス  
副作用と臨床検査
- 第2～4回 重篤な副作用疾患の解説
  - 急性腎不全
  - 尿閉・排尿困難
  - 薬剤性パーキンソンニズム
- 第5回 臨床医が語る副作用症例  
服症状からみる副作用症例：緑内障、網膜・視路障害など

### ◆平成22年度秋期講座

- 第1回 基本事項とトピックス  
副作用と病理組織
- 第2～4回 重篤な副作用疾患の解説
  - 偽アルドステロン症
  - うつ血性心不全
  - 急性肺炎
- 第5回 臨床医が語る副作用症例  
血液所見からみる副作用症例－副作用疾患の推論－

## 電子処方箋システム (Pharma WEB) の概要



病院で診察を終えた患者さんは、FAXコーナーに設置している電子処方箋システム用端末のタッチパネルを操作して、調剤薬局への医療情報提供を患者さん自身が同意（処方箋情報提供承諾書）します。



次に患者さんは調剤薬局を選択します。その選択方法は2種類あります。

- ・五十音順に並んだ薬局名一覧から選択
- ・地域を選択し、その中にある薬局名から選択

患者番号: 000008004 山上太郎様  
【処方箋入力メニュー】

薬局の検索方法を下記のメニューからお選びください。

前記同意と調剤薬局が選択されたことにより、患者さんの医療情報は電子処方箋システムによって、データセンター内の医療情報共有化システムに転送・保管されます。

調剤薬局では訪れた患者さんから処方箋を提出してもらった上で、電子処方箋システムにより医療情報共有化システム内の医療情報を参照します。

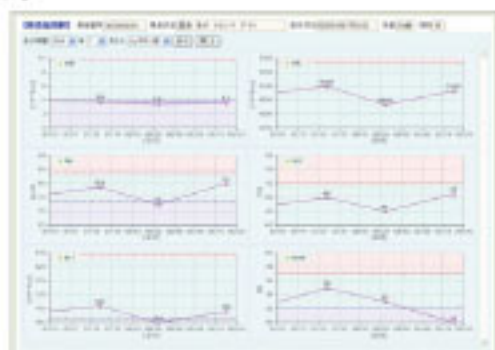
調剤薬局が参照する処方情報画面には、薬歴カレンダー機能や、後発医薬品参照機能などがあります。

- ・薬歴カレンダー機能は以前の処方内容から今回までの処方内容を時系列的に確認できます。
- ・後発医薬品参照機能は処方薬に対応する後発医薬品を参照できます。

将来的には、飲み合わせチェックなどの機能拡張を考えております。



また、病名や臨床検査データも画面から参照できます。特に、臨床検査データは項目別にグラフ表示することができ、視覚的把握を容易にしています。これらによって、調剤薬局は積極的かつ的確な服薬指導・生活指導などができるようになります。



さらに、疑義照会内容、後発医薬品名、副作用発現状況、アレルギー歴などを電子処方箋システムを用いて調剤薬局側から医師へ電子データとして返すことができます。これによって、医師は電話やFAXなどで診断を中断されることがなく、調剤薬局からの情報を受け取ることができます。

